



平成22年5月17日

各 位

日本出版貿易株式会社  
代表取締役社長 大野 利夫  
(JASDAQ・コード8072)

問合せ先

事業管理部本部長 岩崎 哲明  
電話番号 03-3292-3751

平成22年3月期通期(連結・個別)業績予想の修正、  
繰延税金資産の取崩し並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ

最近の動向等をふまえ、平成21年11月10日に公表いたしました通期連結業績予想および通期個別業績予想を下記のとおり修正し、配当予想につきましても修正するとともに、繰延税金資産の取崩しにつきまして、下記のとおりお知らせいたします。

## 記

1. 平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)  
(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	8,730	147	102	60	9円42銭
今回修正(B)	8,126	87	48	△110	△16円58銭
増減額(B-A)	△604	△60	△54	△170	—
増減率(%)	△6.9	△40.8	△52.9	—	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	8,413	36	△4	13	2円19銭

2. 平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)  
(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	8,421	123	82	50	7円85銭
今回修正(B)	7,898	67	23	△130	△19円50銭
増減額(B-A)	△523	△56	△59	△180	—
増減率(%)	△6.2	△45.5	△72.0	—	—
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	8,104	4	△32	△13	△2円28銭

### 3. 理 由

個別における売上高のうち出版物につきましては、輸出売上高が期中の急激な円高と海外の景気後退の影響を受けて8千3百万円減少する見込みです。また洋書の国内販売のうち英語教材は堅調に推移しましたが、外国雑誌及びペーパーバックの売上高が伸張せず、トーハンの協業による売上増を加えても5億1千7百万円減少する見込みです。輸入音楽関連ソフトの売上高は音楽配信・洋楽離れの中ネット業者への販売強化、並びにクラシックの独自ブランド商品の開発に注力した結果2億4千7百万円程伸びる予想です。音楽ソフトの輸出売上高は米国の消費低迷と期中の急激な円高の影響を受け1億7千万円程減少する見込みです。以上の結果、売上高合計は予想を5億2千3百万円下回り78億9千8百万円となる見込みです。営業利益におきましては売上未達による減益並びに返品調整引当金を計上したことにより予想を下回り6千7百万円となる見込みです。また、経常利益は為替差損の計上により2千3百万円となる見込みです。当期純損益は投資有価証券評価損1億5千万円の計上と繰延税金資産の取崩を行いますので1億3千万円の純損失を計上する予定です。

連結におきましては世界経済低迷の中、比較的堅調でした。特に海外子会社の取り扱っている日本語教材の販売は順調に推移いたしました。従いまして、売上高81億2千6百万円、営業利益8千7百万円、当期純損失は1億1千万円となる見込みです。

### 4. 繰延税金資産の取崩し

当社が計上しておりました繰延税金資産の回収の可能性について慎重に検討した結果、平成22年3月期第4四半期決算において2億2千万円を取崩すことといたしました。

### 5. 配当予想修正

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要施策と位置づけており、業績、配当性向ならびに企業体質の強化と今後の事業展開に必要な内部留保等を考慮し、積極的に株主に対する利益還元を実施してまいりました。しかしながら、当事業年度においては上記修正の理由に記述したとおり当期純損失を計上する予定でございますので、誠に遺憾ながら期末配当は見送りさせていただきます。株主の皆様には深くお詫びを申し上げますとともに、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
前回予想 (平成21年5月14日発表)	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 3.00	円 銭 3.00
今回修正予想	—	—	—	0.00	0.00
当期実績	—	—	—	—	—
前期(平成21年3月期)実績	—	—	—	0.00	0.00

(注) 上記の修正額は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上